令和8年度　第2回高根沢町未来創造会議　記録

1．開催日時　：　令和8年 11 月4日（水）　14 時 00 分～15 時 30 分
2．開催場所　：　高根沢町役場第1・2会議室
3．会議の趣旨：（1）「第1回若者ミーティング（2期生）」の概要及びフィードバックについて
（2）「高根沢町地域経営計画 2026」令和9年度の推進に係る「若者ミーティング」への提言について
（3）「高根沢町地域経営計画 2026」令和9年度の推進について
4．出席者

（構成委員）

部門	所　属	職　名	氏　名	備　考
住民	高根沢町自治会連合会	副　会　長	牧　　恒　男	
産業	高根沢町農業士会	会　長	仲　山　光　弘	欠席
産業	高根沢町経済懇話会	会　長	齋　藤　隼　人	
教育	高根沢町教育委員会	委　員	齋　藤　君　世	
教育	宇都宮大学地域デザイン科学部	教　授	佐　藤　栄　治	欠席
金融	足利銀行宝積寺支店	支店長	吉　永　祐　二	
議会	高根沢町議会	まちづくり常任委員会委員長	野　口　昌　宏	
議会	高根沢町議会	くらしづくり常任委員会委員長	森　　弘　子	
その他	高根沢町人権擁護委員会	会　長	安　達　奈　美	
	高根沢町	町　長	神　林　秀　治	座長

（事務局）

高根沢町企画課	課長	檜　山　史　進	説明
	課長補佐	直　井　義　之	司会
	係長	菅　谷　昌　孝	説明
	主任主事	石　川　秀　幸	記録

５．質疑応答内容

(1)「第１回若者ミーティング（２期生）」の概要及びフィードバックについて

安達委員：　若者ミーティング委員（以下「若者」という。）のＨさんによる私人所有の公園に関する質問について、私人所有の公園というのはどのような経緯でできたものか。

事務局：　私人所有の公園は、主に過去に民間事業者が開発した住宅団地の中に設置された公園である。設置当時は住宅団地内の公園を町へ移管する制度が整っておらず、開発事業者や土地所有者が所有・管理する形で残っているものがある。
（※現在は、住宅団地の開発に伴い設置される公園については、整備後、町が寄附を受け入れ管理する仕組みとなっている。）

齋藤(君)委員：　そのような公園の管理に関する問い合わせ先も回答するべきではないか。

事務局：　Hさんには、所管課等関係者と状況を調べて回答すると伝え、会議後速やかに都市整備課及び当該地域の自治会長にヒアリングした上で回答済みである（内容：資料①p.8参照）。

森委員：　高根沢町の子育て支援施策は『高根沢町子育て応援ガイドブック』にみられるように充実しているのにも関わらず、その情報が町民に行き届いていないことが課題。
そのような重要施策を優先しなければならない中で、国道4号に人々の交流拠点を設けることを検討しており来年度調査をすると町長が回答しているが、道の駅たかねざわ元気あっぷむらが赤字を抱えている中、2つ目の道の駅ができるかのように若者に捉えられてしまうのではないか。

事務局：　当該調査は、交流拠点のターゲット設定、元気あっぷむらとの棲み分け、財源確保や土地利用の調整等を、実施可否を含め全般的に検討するためのものであり、実施ありきで調査するものではない。

森委員：　町内に娯楽施設を設けるとよい等の若者からの提案に対し、町の財政状況も踏まえた現実的な話し合いをするべきではないか。

牧委員：　若者に財政的制約をベースに考えさせて意見が委縮することは非建設的であり、理想を率直に述べてもらう方が良いと思う。

事務局：　若者に対し専門的な財政の話はしていない。若者には、町の規模に応じた範囲のやりくりで施策を考えることになる、という説明をしている。

齋藤(君)委員：　他の自治体と比較して町にないものを探すよりも、町の今ある良さを探すことや、町に既にあるものを活かした施策を検討することが望ましい。そのような投げかけをすると、財政事情のイメージもつきやすく、より良いミーティングになると思う。
また、若者からの意見への回答に当たっては、「今後若者の皆さんにアイデアを是非いただきたいところである」といったコメントでもよいと思う。

野口委員：　他自治体の先進事例（例：那須塩原市の「みるる」、真岡市の「monaca」）を視察し、住民生活に寄与するよう活かすことも有効。学校施設等の町内資源を利活用できるとよい。

吉永委員：　子育て世帯が家を建てる場所がないように思う。現状、さくら市の方が土地の値段が低く、住民や移住者を取られてしまっているが、町の都市計画の見直しは検討しているか。

神林町長：　市街化区域にはまだ家が建てられる土地が数多くある。
市街化調整区域の見直しについては、県との協議に年単位の長い時間が必要となるため現時点では難しい。町の線引きのある土地利用を選んでいただく方針である。

森委員：　ハウスメーカーが自治会長を訪ねる際に言うには、高根沢町は開発しやすい、家を建てやすい土地柄であり、さくら市よりも通勤・通学が便利である。
また、財政資源の少ない自治体は特に、施策の取捨選択・工夫が必要であるため、若者の意見に期待する。

牧委員:　　たかねピアの実行に対する町の姿勢は、資料を見るに消極的に感じる。
野口委員:　　町がノウハウや情報の提供等のバックアップをするといった説明がよいのではないか。
神林町長:　　実行委員会の意向に寄り添い、まずは小さいところから支援していくという趣旨である。
安達委員:　　たかねピアを実行したいと考える人々の声が町に届いていることに意義を感じる。

(2)「高根沢町地域経営計画 2026」令和９年度の推進に係る「若者ミーティング」への提言について

【「たかねざわ伝え隊」の活動について】
吉永委員:　　フォロワー数を増やすために、SNS 投稿方法を工夫してはどうか。
事務局:　　視聴者への「つかみ」を重視するのが有効と考える。SNS の投稿は写真のみでは見ても読まれずにスルーされてしまうため、インタビュー等のリール動画での投稿が有効と考える。
また、プロのコンサル等に協力を依頼することも検討案として考えられる。

齋藤(隼)委員:　具体的な目標(例:いつまでにSNSフォロワー何人、等)を設定してはどうか(ノルマにならない程度に)。
事務局:　　若者の意欲向上に繋がるのであれば検討したい。若者の空気感を見ながら判断する。

野口委員:　　自治会のことも広報できるとよい。
事務局:　　自治会等について、若者から取材・発信したいという意向があれば検討は可能である。
吉永委員:　　若者が町の店舗の従業員と話したりすることもよいと思う。
齋藤(君)委員:　町の小中学生の間で人気の「のぶおバンド」のイベントとコラボするとよいと思う。

【「たかねざわ伝え隊」の活動について／若者ミーティング会議について】
齋藤(君)委員:　2期生の若者ミーティングの取組が昨年度の1期生の時と概ね同様であり、若者の意欲を削がないよう若者の意見をリンクさせていくことが必要だと思う。
例えば、「娯楽がない」という意見に対し、町の娯楽となるものをSNSに投稿する等。
地域の小さいお祭り等をSNSに投稿することも有効だと思う。
事務局:　　若者からの意見は丁寧に扱っていく。

(3)「高根沢町地域経営計画 2026」令和９年度の推進について

森委員:　　現在、学童がすしずめ状態であり、(学童保育のおやつ提供における)アレルギー対応等に支障が出ている。財政が厳しい中でも、補助金の活用等により子育て環境への支援等やるべきことは実施するのが望ましい。
神林町長:　　子育て支援は重要施策であると考えている。

齋藤(隼)委員:　DXに関連して、町民にとって町の情報を調べやすくなることが重要。
プッシュ通知やFAQの整備等の検討をするとよいと思う。
事務局:　　それらの検討に加え、理想としてはチャットボットを導入することが挙げられるが、そのためには先に町ホームページを整理する必要がある。チャットボットを導入する場合、まずは庁内で活用を始めてAIに学習を深めさせてから町民向けに利用を開始するのがよいと考えている。